

福井県・原子力発電所の立地地域の将来像に関する共創会議ワーキンググループ全体会合（第5回）の議事要旨

日時：令和4（2022）年5月17日（火）10時00分～11時20分

形式：WEB会議

参加：関係自治体 福井県、敦賀市、美浜町、おおい町、高浜町

関係府省庁 内閣官房、文部科学省

電力事業者 関西電力、北陸電力、日本原子力発電

オブザーバー 小浜市、若狭町、福井県経済団体連合会

事務局 資源エネルギー庁、近畿経済産業局

議事次第

- ・事務局から「将来像の実現に向けた基本方針と取組（案）」について説明
- ・意見交換

参加者の主な発言

（1）全体像について

- ・国は原子力政策の一層の明確化に向けて議論を深めてもらいたい。
- ・立地地域、国、電力事業者がともに協力し、嶺南地域の将来像実現のために共創していくことが必要。
- ・嶺南地域の各市町が手を取り合い、一体となって取り組むこと、地域の連携が重要。
- ・各事業の具体化を通じ、嶺南地域が発展していく姿を示してもらいたい。
- ・2024年春の北陸新幹線敦賀開業、2025年の大阪関西万博といったビックイベントを契機に、地域全体がより発展できるよう、取り組みを1つ1つ進めていきたい。
- ・「将来像の実現に向けた基本方針と取組」は不変のものとするのではなく、今後の時代、社会や市町の変化に伴い、柔軟に変更できるようにしてもらいたい。
- ・国を支える電力供給地として、誇りある地域を、地域の皆さんと一緒に創ってきたい。
- ・嶺南地域の一員として、持続的な発展に向けて、主体的かつ積極的に取り組んでいく。

(2) 個別の取組

- ・ 廃炉リサイクルビジネスについて、国のリーディングプロジェクトとして位置づけられたことに感謝。今後は、予算や規制対応についての支援をお願いしたい。
- ・ 試験研究炉について、地元企業からはラジオアイソトープ製造についての期待が示されているため、立地地域ならではの事業として、ラジオアイソトープ製造拠点の形成に向けた取組を検討してもらいたい。
- ・ 試験研究炉は、これから詳細設計が進められる段階となるがラジオアイソトープの製造に貢献する可能性もありうるのところ、引き続き検討をしていきたい。
- ・ 国は、早急に原子力をCO₂フリー電源に位置づけてもらいたい。
- ・ 原子力由来の水素製造実証を通じて、クリーンエネルギーとしての原子力のさらなる可能性を追求していくとともに、原子力電源の価値や魅力の向上を通じて、広く立地市町をはじめとする嶺南地域全体のリブランディング化につなげていきたい。
- ・ 嶺南地域をつなげるという意味で、交通という観点は重要。国、民間事業者に交通モビリティの活性化について協力してもらいたい。
- ・ インパクトや夢のある新しい取組を追加してもらいたい。例えば、1970年の大阪万博では、原子力発電所が発電した電気を会場に送電したが、2025年の大阪・関西万博と水素関連などで連携した取組や、水素・アンモニアサプライチェーンの構築に向けた水素発電実証の取組、小水力発電など再生可能エネルギーの開発などを検討してもらいたい。
- ・ 水素発電についての研究開発事業を、国の補助制度を使って、実施できれば良いと考える。
- ・ 小水力発電は地元企業が参入するのに非常に良いテーマであり、工程表に入れてもらいたい。
- ・ 観光について、自治体の枠を超えた広域的な事業連携を進めていくことで、より事業効果が高まると考える。観光分野における広域的な事業連携に係る具体的な支援を行いたい。

(3) 実効性の確保について

- ・これまで、共創会議やWGで提示してきた内容がほぼ反映されており、感謝。今後は、如何に実効性を確保していくべきかといった点を重視すべき。
- ・国は、各事業に関係する民間事業者の取りまとめ・調整、事業の牽引役になってもらいたい。
- ・国や電力事業者が、県、市町とともに、事業の企画段階から参画することや、当該分野の専門家を市町等に派遣することを検討してもらいたい。
- ・各市町の事業実施に対する支援が単発の研修や単なる助言に終わることなく、実際に専門家が、例えば一定期間地域に滞在して、地域の理解を深めた上で、支援するような、地元密着型の支援体制等を構築することが必要。
- ・福井県には、工程表記載の各取組の実現に向け、嶺南Eコースト計画の枠組みを活かしながら、各市町の取組や行動のコーディネイト役を担っていただきたい。
- ・嶺南全体の底上げとの意識が大切。広域的な視点で、取組の実効性確保を、第一に考えて、進めてもらいたい。

(4) 事業推進WGについて

- ・事業推進WGについて、年2回の開催にこだわらず、事業を企画・実施する段階では、もう少し頻繁に開催することを検討してもらいたい。
- ・実務メンバーが機動的に集まるタスクフォースのようなものを設置して、取組を強力に推進する体制を構築してもらいたい。
- ・事業推進WGに民間有識者やゲストスピーカーが参画することにより、新たなアイデアや知見を取り入れた活発な議論ができると期待。
- ・事業推進WGが実効性を持って進められていけるように、しっかり協力していきたい。